

翻刻『風流新誌』

要 木 純 一

ここに翻刻する『風流新誌』（第一号・第二号）は、前号で翻刻した『風月小誌』のおそらく続篇で、やはり、明治初期松江の漢詩人、平賀静遠（半助）が中心となって編輯したものである。『風月小誌』が漢詩と和歌の選集であったのに対して、『風流新誌』は漢詩と俳句の選集である。俳句の選に当たったのは、江戸から明治にかけて活躍した俳人釣年庵曲川で、明治初期の出雲地方における俳壇事情を知る上でも、『風流新誌』は興味深い資料である。要木はかつてこの翻刻の底本である、国立国会図書館所蔵のテキストを『風月小誌』とともに影印した。（『影印 風月小誌 風流新誌』二〇一〇年三月発行 非売品）原本の劣化が甚だしく、読みづらいが、幸いにも本書は東京大学にも所蔵されており、こちらは比較的に鮮明な部分が多いので、対校してここに翻刻を供した。『風月小誌』、『風流新誌』の書誌や平賀静遠の履歴については、要木「明治初期の出雲漢詩壇について」（蘆田耕一・原豊二編『出雲文化圏と東アジア』所収 勉誠社 二〇一〇年八月）に簡単な紹介を記したので、そちらも参考にして頂きたい。

内容を正確に伝えることに重きをおき、字の配置や大きさなどのレイアウトは、原典を再現することに意を注がなかった。たとえば、作者名の下の小字割注を本文と同ポイント、同行にした。傍点は、評の内容にかかわるのではなく、ただ原文通り振ったが、印刷のかすれ等で明らかに欠けていると判断したものは、特に断りなく補った。便利のために、各号、各ジャンル（漢詩・俳句）毎に、作品に連番をアラビア数字で振った。所謂変体仮名は、原稿の字体に統一した。漢字の表記は常用漢字体を基本としたが、一部、要木の趣味により、旧体字のままになっているところがある。【】内に要木の説明や校訂を加えた。

『風流新誌』第一号翻刻

【表紙】

明治十四年二月発行

風流新誌【大字】 第壹号

風月吟社【二号正誤に風月吟社下有ルハ全ク印刷ノ誤ニ付取消とあり】

【本文】

風流新誌序

風雅は俗にちかく俗は風雅に遠しとかや其遠きをちかくせんことをはかりて風流新誌つくれる此唐歌を味ひ心を向上の一路に遊び作を四海にめぐらすへしといふ俳諧の発句を風交すたとはは高味の喰物に木の芽をあしらふに似たりこゝに俳諧四時の草々あるこれか中のかをりよろしきをえらひ風流新誌の唐物なる籠に摘入はへるものは釣年庵曲川老人

風流新誌第壹号

1 初冬園居

静岡 星秋居士 吉岡氏
愛日如嘘雨霽時。林塘踞發然吟髭。枝高残柿從鴉啄。水濁潜魚有鷺窺。屋角梅迎人意笑。籬辺蝶与菊
花衰。羸輸未決前宵局。隣叟頻來促覆棋。

雨森老雨云。涪翁遺響。

2 簸水納涼

松江 蘭窓主人 坂本氏
溪流百餘里。一葦掉二清隈。風意長レ於レ水。知從二鳥上レ來。【掉は恐らくは棹に作るべし】

老雨云。冷然善。

3 戲代二醉客一賦

全 春流逸人 高橋氏
紅燭滿樓百妓困。清歌妙舞興將レ飛。酩酊不レ覺誰扶レ我。一輛輕車載レ夢歸。

老雨云。写出二醉態一。咄々逼レ真。○勝田睡仙云。恐兄自為自道也。

4 淫雨連句不レ歇詩以書レ感 広瀬 吳淞 稻田氏

驟雨吹レ衣夏怯レ風。天当二三伏一雨空濛。寒民他日泣レ飢淚。釀在二檐声蕭寂中一。

老雨云。慘憺不堪レ讀。

5 咏レ梅

松江 鱸汀 鈴江氏
痴蜂狂蝶豈知レ情。愧与二桃梨一同二此生一。独立守レ寒高二氣骨一。梅○花○真○是○聖○之○清○。

老雨云。聖之清品藻妙。

6 挿レ秧

全 雲汀 三成氏
平野分レ秧万頃田。又從二山麓一到二山巔一。農歌幾処声如レ湧。只見高低笠百千。

老雨云。実景如レ見。

7 咏二常盤一

全 梧北 榊氏
双淚珊々無二尽時一。良人蹉跌事堪レ悲。不レ妨楊柳随レ風靡。挽二得桑榆一此是絲。

老雨云。三四得二咏史体一。

8 某庭觀二牡丹一

全 混々斎 安井氏
名種移栽名士家。濃紅淡紫競二豪華一。凡桃俗李争相及。自是天然富貴花。

高橋春流云。真個牡丹詩。

9 曉鶯

日御崎 古庄英太郎

枕上窓明曉色浮。嚶々声裡月光流。繡衾猶結梅花夢。試問啼鶯妬我不。

春流云。三四奇甚。

10 秋江釣魚

松江 藍水 青戸氏

山水水光皆入秋。長江波穩接天流。嗷々誰伴垂綸夕。宿雁声寒紅蓼洲。

春流云。流麗。

11 暮春書懷

全 桃源漁史 河合氏

蝶去蜂迷老却春。傷心最是惜花人。桃紅李白千林錦。散作風前幾點塵。

春流云。盛則衰。人生亦如此。

12 初夏閑居

悠南吟農 景山氏

一声来枕夢醒時。不_レ是秧雞一定子規。夏木千章新翠滴。清閑無_レ比_二独敲_一詩。【無字下にもとれ点なし。今補う】

春流云。清閑可_レ想。

13 夏日雜咏

松江 秀実 田中氏

讀書倦去亦臨_レ書。畏_レ暑經_レ旬不_レ出_レ廬。別有_二兒嬉消_二永日_一。瓦盆貯_レ水弄_二金魚_一。【經、弄、魚字下にもと返り

点なし。今補う】

春流云。有_レ趣。

14 团原路上

全 雲滙 三嶋氏

紅、淡、斜、陽、映、処、坡。綠、搖、閑、鷺、浴、邊、波。酒、醒、獨、去、江、村、晚。一、路、秋、風、起、敗、荷。

河野苔洲云。清淡有_レ味。

15 対_レ山煎_レ茶

広瀬 春山 瀧氏

独坐烏巾客。煎_レ茶心自閑。不_レ関人世事。坐对檻前山。

春流云。合作不_二必点_一。

16 新年閑適

松江 香溪 伊藤氏

偷_レ春梅笑傲。凌_レ雪竹平安。殊喜新醅熟。把_レ杯好倚_レ欄。

睡仙云。笑傲平安佳对。

17 夏日所_レ見

全 松鶴老夫 下村氏

半山疎雨罩_二斜暉_一。輕颺雷声度_二翠微_一。一片石凹充_レ切水。雀雛来去洗_二毛衣_一。【罩斜暉、度翠微もと返り点なし。

今補う】
睡仙云。夏景可_レ掬。

18 首夏即事

松江 半醒 佐川氏

紫紅無_レ迹夏初天。困_レ舍新林淡帶_レ煙。一夢醒來心地爽。緑陰如_レ水滴_二吟辺_一。

睡仙云。涼氣溢_レ箋。

19 松江雜詩原四首録_一

隱岐 春坡 渡部氏

一盃緑酒伴_二紅袍_一。鳴玉樓頭興正豪。少婦知_二吾詩思動_一。笑開_二素扇_一乞_二揮毫_一。
老雨云。得意可_レ知。

20 辛巳一日

広瀬 石雲 鈴木氏

旋酌_二屠蘇_一例已終。瑞雲靄々罩_二東空_一。幽香暗動梅窓曉。春入_二團欒_一笑語中_一。

平賀静遠云。流暢。

21 早春

松江 錦霞 勝田氏

池塘水暖帶_二輕烟_一。魚_レ啣_レ飛花聚_二碧漣_一。遠嶂班々猶駐_レ雪。村園春色已嬋妍。
静遠云。前半劍南声口。

22 春寒

全 淞雨 松田氏

雪鎖_レ連山玉作_レ堆。黃公猶未_二喚_一春來_一。莫_レ嫌料峭東風緊。天為_二詩人_一健_二野梅_一。

老雨云。似_二楊誠齋_一。健字妙。

23 車駕見_レ臨_二南叡山_一恭賦_レ此奉_二呈侍從臺下_一

西京 寂順 村田氏

車駕過_二郊野_一。篋壺盈_二陌阡_一。脱_レ衣憐_二凍餒_一。減_レ稅察_二炊煙_一。雲白台山頂。氷寒富嶽巔。何凶臨_二古寺_一。恩露洽_二枯禪_一。

老雨云。端莊雅正。自能不_レ失_二風人之旨_一。第四實際語。○又云。寂順大有_レ功_レ於_二宗門_一。今日駐_三蹕於_二南叡_一。亦有_レ所_二由来_一。

24 倉沢

陸前 帰雲山樵 村上氏

無_レ端驟雨過_二汀湾_一。急遽風帆截_レ波還。雷轟海天晴未_レ定。殘雲吞吐_二豆州山_一。

老雨云。如_レ見。

25 立春前一日作

広瀬 笠山 中村氏

日暮讙声湧_二四隣_一。變_レ魘此際定_二逡巡_一。細論_二世事_一非_二吾意_一。更喜明朝是立春。

阪本蘭窓云。歲晚別有_二變魘跋扈_一可_レ畏。呵々。【此の評もと返り点なし。今補う】

26 湖上矚日

松江 臨齋 秋庭氏

一碧波平不_レ起_レ風。遠帆西坐近帆東。斜暉閃処鐘声度。寺在叢松鬱勃中。

高橋愛山云。第四松江実景。

27 雪朝

全 半村 飯島氏

苒苒渾被_二玉塵封_一。庭際也無_二杖履蹤_一。堅臥怯_レ寒人未_レ起。棲禽独噪雪中松。

老雨云。独噪作者苦心処。

28 小学開校觀_レ生徒揮毫_一賦_レ此以祝

全 石徑 中山氏

頭角嶄然如_レ有_レ誇。山陰原自富_一書家_一。開明風与_二東風_一遍。闕_レ艷文林筆下花。

靜遠云。第二句有_レ力。

29 春初写_レ興

全 弘軒 吉田氏

寒筍_一鶯舌_一聽無_レ聲。春到_二窓梅_一香暗生。漠々凍雲凝不_レ動。人言魚_一餽欲_二連城_一。

老雨云。春初景況如_レ見。

30 偶成

全 靜心 平賀氏

人生五十疾_レ於_レ梭。一世只須_二醉裏過_一。富貴不_レ求貧也好。淡中真味此_レ辺多。

老雨云。安分語。淡中真味可_三移評_二此詩_一。

31 春日閑居

全 睡仙 勝田氏

花落花開春杳然。睡成睡覺共安便。自無_二塵務紛拏苦_一。儘有_二詩情一縷牽_一。幽夢_一趨_レ香_一將_レ化_レ蝶。殘涯_一避_レ俗未_レ

成_レ仙。沈痾難_レ療吾何嘆。却領煙霞風月權。

老雨云。居然支那調。自不_レ似_二邦人_一声口_一。

中村笠山云。風月全權。天実与_レ之。非_二苟言_一矣。

○

1 静さにたまりかねてや雉子の声 東京 春湖

2 坐敷から相伴に出て一夜酒 同 等哉

3 出て待てもとれは椽も月夜かな 同 完鷗

- 4 分入て寒わすれぬ年の市
5 鶯の笠えらひせよ椿寺
6 さ、啼や雀のあとへ下りかはる
7 箒目も上手下手あり菊の花
8 来た人かさくりあてけり藪の梅
9 鶯の声にもかへせ笹の風
10 初もの、眼にふれ安き乙鳥かな
11 丸めたらめてたく成りぬ鏡もち
12 梅か香や畑ぬけ行人の声
13 水際の草伸しけり春の風
14 春雨になたれて白し岸の砂
15 晴にむく春雨寒し夜の空
16 鶯や起きて吹けす有明し
17 初霜や垣根にやせし菊茶色
18 明たれは又年玉のあられかな
19 広濱を馴染ふりなり啼千鳥
20 雪つむや竹の力の見ゆるまで
21 雛の花かきちらす齋かな
22 年玉や熨斗も模様包のもの
23 うら白の曙ひと葉ひと葉かな
24 日のぬみ巻込て散この葉かな
- 西京 芹舎
同 犁春
大坂 潮水
同 喜多女
同 素吟
尾張 はしめ
同 静処
同 酔雨
同 葉々
同 香村
同 不退
同 羽州
同 伊勢 蔵中
伊豫 吾遊
因幡 治
同 芳盛
同 晚香
長門 梅宿
石見 静雄
同 梅日
作州 愛菊

【二号正誤にぬみハぬくみノ誤とあり】

- 25 かけ乞のもたれて待や米俵 同 愛竹
 26 年越して又山のある寒かな 出雲 芋村
 27 大空に声はかくれぬ雲雀かな 同 竹窓
 28 門松やかさりた人かく、りそめ 富山
 29 御降や年はたしかに明なから 可物事 一外
 30 庵へくる人の見て居る柳かな 也丈
 31 寒さにも扇ひろけて御万歳 梅圭
 32 むしろ戸のふところぬき楳火かな 楓川
 33 月の夜や人しつまりて里の雪 俳川
 34 待た日のかげにや咲て福寿草 百喜
 35 川そへや家さへあれはさし柳 さやか
 36 寝た家をはさんて梅の月夜哉 百子
 37 万歳の袖ひろけるや大戸口 菊川
 38 夜明れは夢のやう也年わすれ 慰水
 39 さかさまに歩行もするか蛸蜒 有花
 40 つひ海の道へ出られて夏木立 秋石
 41 咲やうにしてもらひけり福寿草 松翁
 42 耳に風それも餘寒とおもひけり 鳳山
 43 蓬葉にひろかる朝の明りかな 梅鳥
 44 年礼やひさつ、む子の愛らしき 花栄
 45 竹は皆たわんでちかし雪の山 重厚

- 46 薄／＼と木の間このまの霞かな
 47 落鮎や矢の行やうに岩の間
 48 ほし合やをしまる、夜の明かゝる
 49 足袋あらふ傍に来て啼からすかな
 50 堂守も茶店こゝろや花さかり
 51 年の花咲ぬ日かけもなかりけり
 52 曇なき人のこゝろや鏡餅
 53 常磐木のふかきみとりや年の花
 54 一家内齡かぞふや鬼の豆
 55 年玉や寺と代宮の二つ、み
 56 元日や箒も塵と新らしき
 57 ても丸い玉なり笹の露
 58 みよし野やそこらこゝらの初さくら
 59 懸香やすたれ見えすく人の顔
 60 鬼灯やちひさい指につふさる、
 61 井戸ひとつ梅ひとつもとや冬搦
 62 露はらふあらしも清し葉の日
 63 湯上りのまゝに覗や蚕棚
 64 迹込てむら雨覗く月見かな
 65 藪入の提灯つらす風呂場かな

竹有佳色

- 霞松
 岩水
 鯉江
 一散
 一秀
 玉兔
 芳園
 寛慰
 琴松
 桃里
 龍濤
 槽琴
 琴松
 大和
 嵐雅
 松翁
 花暉
 柳窓
 梅枝
 曲川

平田

【二号正誤に一散八一敬ノ誤とあり】

66年明けし色やそよ／＼竹の風

全

【奥付】

明治十四年二月御届

同年 同月出版

編輯兼出版人

島根県土族

平賀半助

出雲国松江内中原町

同

同

勝田千之助

同

南田町

発兌所

一年舎

同

天神町

『風流新誌』第二号翻刻

【表紙】 【風流新誌の篆刻印あり】

明治十四年四月発行

翻刻『風流新誌』

【粹】風流新誌【大字】 第二号

【本文】

風流新誌第二号

書風流新志首

松江 静心逸史 平賀氏

有天地而有文。凡盈天地之間者皆文。月星雲霞之於天。山川草木之於地。文之昭々者也。天地之文。既已如此。獨人而無文哉。凡觸於目。動於心。發於聲音。怒而嗜啞。笑而胡盧。何適而非文。雖然。天地之文。人々所常見。至人之文。非就其人而觀之。靡得而知焉。詩亦文之一體也。而其感人心者。莫近焉。故欲觀人之文者。必自詩始。是此冊之所以不可不編乎。此冊也。雖未足以尽松江人士之文。可窺其文之盛者。未必不在此冊。

編者云。詩亦文之一體也句。一篇骨髓。而文短簡有餘意。

○

1所見

老雨居士

片雨遙過水。斜陽忽在山。行人三四五。喚渡淡煙間。

靜遠云。草々看過如無趣。及熟讀再三。始覺其妙。真是老練作。

2宮島 三首録一

全

神女祠前潮浸廊。豊公閣上月如霜。夜深四顧無人影。一鶴留聲入渺茫。

勝田錦霞云。豊公閣即千疊坐敷。文祿之役。毛利氏所設焉以待豊公也。【祿はもと録に作る。今改む】

3秋色

苔洲

染、楓、粧、_レ、菊、映、_レ、晴、暉、_一。如、淡、如、_レ、濃、湿、又、晞、_一。墟、古、寒、烟、和、_レ、草、積、_一。天、空、孤、鶩、与、_レ、霞、飛、_一。呼、為、_レ、瀟、洒、_一、知、_レ、難、_レ、副、_一。断、作、_レ、荒、涼、_一、恐、也、非、_一。好、準、_レ、楚、詞、論、_レ、氣、处、_一。登、_レ、山、臨、_レ、水、送、_レ、將、_レ、歸、_一。【送字の下にもとレ点無し。今補う】

4 懷郷

老、雨、云、_一。冷、淡、幽、雅、_一。与、_レ、題、相、叶、_一。○静、遠、云、_一。妙、在、_レ、可、_レ、解、不、_レ、可、_レ、解、之、間、_一。

老、雨、云、_一。真、是、遊、官、人、之、詩、_一。僕、亦、嘗、有、_レ、此、情、況、_一。

5 蘆汀夜泊

舟、人、無、_レ、語、夜、何、如、_一。酒、醒、秋、寒、特、地、多、_一。月、在、_レ、蘆、花、_一、風、撼、々、_一。一、汀、乾、雪、撲、_レ、金、波、_一。【械字不鮮明】

老、雨、云、_一。元、人、口、吻、_一。

6 咏史

心、期、_レ、死、戰、_レ、謝、_レ、宮、娥、_一。金、鏃、縱、橫、付、_レ、涕、沱、_一。不、_レ、負、_レ、当、年、_レ、桜、里、_レ、訓、_一。三、十、一、字、_レ、馥、_レ、於、_レ、花、_一。

老、雨、云、_一。詩、句、亦、馥、_レ、於、_レ、花、_一。

7 六道湖春望

江、煙、破、_レ、處、露、_レ、孤、城、_一。目、送、_レ、扁、帆、_一、立、_レ、晚、晴、_一。淺、碧、濃、紅、_レ、春、遠、_レ、近、_一。夕、陽、_三、十、六、灣、_一、明、_一。

老、雨、云、_一。若、_レ、画、_一。僕、甚、愛、_レ、此、樣、句、_一。

8 和三星巖先生韻

柳、帶、_レ、微、風、_一、花、帶、_レ、烟、_一。一、条、春、綠、是、_レ、鳧、川、_一。三、十、六、峰、如、_レ、臥、_レ、樣、_一。百、呼、不、_レ、醒、_レ、艷、_レ、陽、_レ、天、_一。

睡、仙、云、_一。豐、艷、_一。

9 聽雨

点、滴、透、_レ、簷、如、_レ、急、碓、_一。丁、東、終、夜、_レ、徹、_レ、孤、衾、_一。愁、人、唯、覺、_レ、添、_レ、愁、_レ、思、_一。不、_レ、信、_レ、聽、_レ、為、_レ、琴、_レ、筑、_レ、音、_一。

静、道、云、_一。翻、_レ、案、放、_レ、翁、句、_一。妙、_一。

伯、耆、_一、竹、園、耕、夫、_一、渡、部、氏、_一

松、江、_一、雲、滙、逸、民、_一、三、島、氏、_一

因、幡、_一、芝、石、_一、牧、野、氏、_一

全

10 次下睡仙勝田良契浮二舟松江一韻上

松江 半醒 佐川氏

天晴湖上棹輕舟。暮色冥々入望幽。小酌清談騷士会。豪歌嬌舞美人樓。長波涵月真堪画。遠笛衝烟暗喚愁。佳景催詩々未就。推敲搔尽二毛頭。

老雨云。四句如見。又云。帰田已十年。回想此興不翅隔世。

11 夏日偶成

広瀬 吳淞 稲田氏

青雲攀桂豈思昇。疎懶自甘百不能。怕見長鬚高帽客。唯親幽寺碧山僧。窓無些熱竹遮日。巷有清風人売氷。物外悠然占閑適。松濤声裡曲吟脰。

渡部竹園云。後聯宋人佳境。又云。長鬚高帽語近諸謔。今人之詩往々有如此者。余甚厭。編輯先生以為如何。

睡仙云。長鬚高帽語雖近諸謔。古人間有此樣語。高青邱詩曰。虬鬚臯吏叩門戶。是也。又云。結句作

三香烟深处曲吟脰何如。

烟花雜詞 十五首錄三

前橋 靜所 平賀氏【録三は当に録二に作るべし】

12 翠閣紅樓錦作霞。三千粉黛鬪豪華。桜花春暖滴街白。輸与人間解語花。

老雨云。未知下与之子筆下花何如上耳。

13 依微落月在西欄。離別情思味太酸。妾有襯衣君且着。衣紋坂上曉風寒。 自註俚曲曰衣襟風冷衣紋阪

蘭窓云。艶福可羨。○睡仙云。非深入於溫柔郷者。誰知此詩妙味。又云。結用俚曲。更妙。

14 初秋泛舟

松江 淞雨 松田氏

早涼勸酒々行頻。沉有風烟巧媚人。衆嘯在波浮。暈碧。長江無処着。纖塵。翩翩沙下双々雁。潑刺盤跳六々鱗。薄暮興來須尽醉。一盃羹暖侑秋純。

静遠云。松江実況写得如睹。

15 冬日山居

全 香洲 米田氏

尽日擁_レ爐坐。不_レ知寒氣增。溪雲纔釀_レ雪。硯沼已成_レ氷。骨相癯_レ於_レ鶴。情懷冷_レ似_レ僧。山中無_二過客_一。松竹是吾朋。

静遠云。真山民遺響。

16 薩陞山下

陸前 婦雲山樵 村上氏【陞は当に埴に作るべし】
潮水流_レ膏粘_二白沙_一。海天風死暑威加。駿南五月如_二三伏_一。滿路紅蕉鼓子花。

老雨云。紀行詩宜_レ如此。

17 錦莊

松江 錦霞莊主 勝田氏
莊門深樹裏。常有_二白雲封_一。初月懸_二新竹_一。晚風弘_二古松_一。曾耕田_二二頃_一。豈意_二緑千鍾_一。天賜_二清閑境_一。永於_二樂_一老慵。

老雨云。前半錦莊縮図。後半主人小伝。○蘭窓云。真個錦莊翁詩。天福如_レ此。永知南山不_レ騫不_レ崩。

18 題画

全 春流 高橋氏
叢間随处有_二鳴虫_一。残日光寒荒野風。古道無_レ人秋寂寞。淡烟疎柳斷橋東。

静遠云。居然唐調。

19 湖上晚景

全
林端暝色隔_レ湾生。日落紅霞獨剩_レ明。水面漸平風減_レ力。布帆徐傍_二暮山_一行。【剩はもと垂左り右に作る。今改む】

老雨云。三四画景。

20 再過_二濱田外浦_一 旧妓院

東京 樂山 熊倉氏
昔年此地幾回留。緑酒紅燈儘漫遊。今日樓空香粉尽。野花狂蝶領_二清秋_一。

老雨云。結句何等清趣。

21 閑適原十首 録二

松江 静心逸史 平賀氏【録二は当に録一に作るべし】
滿堂詩酒足。藜藿豈悲_レ窮。琴筑茅檐雨。宮商松澗風。托_三生於_二猿鶴_一。忘_レ世在_二盲聾_一。筆_○耨_○真_○吾_○事。紙_○田_○無_○二_一歉。

豊[○]。【雨はもと雨に作る。今正す】

老雨云。後半似^二劍南^一。

22 戲咏^二春柳^一

全 睡仙慵夫 勝田氏

垂袖^レ婀娜^レ那立^二夕晴^一。楊家[○]弱質[○]翠妝[○]成。総従^二攀折^一柔無^レ力。独向^二分離^一暗愴^レ情。緘手[○]倦時[○]懷[○]月睡[○]。細腰^レ舞^レ処^レ帯^レ風輕。憑^レ誰^レ解^レ積^レ纏^レ綿^レ恨。倩^レ燕^レ喃^レ々^レ語^レ有^レ声。【憑字下^レ点もと無し。今補う】

老雨云。五六何等巧妙。

23 冬日閑居押^二静遠平賀君之韻^一

全

十歲^レ耽^レ詩^レ鬢^レ已^レ斑。漸知^二仙境^一在^二塵寰^一。繞^レ簷^レ琴^レ筑^レ靜^レ中^レ雨。滿^レ壁^レ雲^レ煙^レ夢^レ裡^レ山。往昔^レ共^レ凌^レ官^レ海^レ嶼。餘生^レ同^レ占^レ布^レ衣^レ閑。想^レ君^レ情^レ況^レ兼^レ如^レ我。高臥^レ悠然^レ昏^レ掩^レ閑。【底本は兼を見せ消ちにして匱に改めている】

老雨云。前聯宋人。後聯元人。七八無^レ限^レ意思。○吉岡星秋云。後聯可^三以為^二君小伝^一矣。僕嘗附^二其驥尾^一奔走。而今猶未^三為^二扁田計^一。二君情況不堪^二健羨^一。

咏史樂府十五闋録^二

全 静遠 平賀氏

24 美色而多力。兩絶得真難。馬[○]上[○]手[○]折[○]驍[○]將[○]首。粟津^レ原^レ頭^レ鮮^レ血^レ殷。蘇^レ軍^レ敗^レ兮^レ雖^レ不^レ逝。虞^レ兮^レ虞^レ兮^レ何^レ獨^レ還。

老雨云。用^二虞兮^一引^レ典^レ確^レ當。○睡仙云。折首易文字。使得妙。

25 城壁未^レ成。詐建^二降旗^一。城壁已成。何以^二翻覆^一綸旨^レ為^レ。松^レ兮^レ翻^レ覆^レ勝^レ綸旨^一。君[○]不[○]聞[○]出[○]乎[○]爾[○]反[○]乎[○]爾[○]。

老雨云。古調古意。○中村笠山云。音調鏘々。

○ 撰者 釣年庵

1 散花の水にしたしき夕かな

トウケイ 春湖

2 舟はまた覗^レき人もなし梅柳

珂水【きは衍字か】

- | | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|
| 3 闇あさき宵とおもへは初かはつ | | | | |
| 4 しら魚はあからさまなる名なりけり | | | | |
| 5 また寒き窓のあかりや梅の花 | | | | |
| 6 見なれたる木の間成けり春の月 | | | | |
| 7 走り井に輪注連もかけてうめの花 | | | | |
| 8 留主守の不取合なり梅の花 | | | | |
| 9 鶯や心よいやら今朝も来た | | | | |
| 10 咲梅の匂ひもわたす小舟かな | | | | |
| 11 山の雪見つくして今日はるの水 | | | | |
| 12 なかれ出る水のはやさや雪の中 | | | | |
| 13 はね起し竹の雫や初日かけ | | | | |
| 14 酔た眼に見たりはしめや朧月 | | | | |
| 15 樹も笑ひか、つて谷のはるの水 | | | | |
| 一 発庵にて | | | | |
| 16 鶯も来て背ぞ、け一発井 | | | | |
| 17 水海や氷なからの初かすみ | | | | |
| 18 築山に入日のあしや春の月 | | | | |
| 19 出代の別る、しほやかねの声 | | | | |
| 20 水鳥のかたよる磯や初かすみ | | | | |
| 21 よい空に成りぬ朝から柳吹 | | | | |
| 22 進物につ、みにくかる干鱈かな | | | | |

ヲハリ 羽洲

静所

荷庵

不退

オホサカ 素吟

潮水

喜多女

ツヤマ 謹一

滴翠

曳尾

愛蔵

愛竹

イナハ 治

晚香

クラヨシ 鉄窓

石茶

イハミ 豊竹

風外

一花

梅処

- 23 一まかり椿にくらきななけれかな
 24 汲ほとはくるや柳の下なけれ
 25 一月もはや去かける夜雨哉
 26 旅人の先へ見つけつ帰鴈
 27 書初の日から隙なき日記哉
 28 藪入や供とは道もうらおもて
 29 川風に蓑吹かへす柳かな
 30 大仕事したおもひ也小松引
 31 出代のまよひもしたり広やしき
 32 福寿草咲せた人のほめにけり
 33 素足にも也よき日なり初かはつ
 34 精進の物とは見えす海苔の色
 35 春寒し雨の曇りの底光り
 36 雨ぬれの髪撫て見る柳かな
 37 火を焚たあとかそへけり春の山
 38 水はなれしてしら魚と成にけり
 39 田作や俵のうへのかさり膳
 40 寒竹や親のたわみて子のそたつ
 41 たからもて宝買けり升の市
 42 休日といふか中にも子の日かな
 43 花を見るはかりに登る小坂哉

- 梅日
 兎雪
 鶯和
 静雄
 ビツチウ 蛙淵
 ニタ 竹人
 ヒラタザイ 楽水
 ヒラタザイ 富山
 ヒラタ 月峯
 竹山
 千代
 梧村
 梅林
 ハヤシキ 小蓑
 千代
 同
 梅花
 松玉
 雲江
 梅花
 唇開

【梧はもと梧に作る。今改む】

- 44 俎に鳥追ちからあまりけり
 45 狗のよく見て通る案山子哉
 46 春の日をほめ／＼登るはし子哉
 47 家建る相談もして鮒鱈
 48 足元に東風吹や磯つたひ
 49 日もすから雪とけて夜の小雨哉
 50 朝起の門へはや来て若菜売
 51 つく／＼と柳見て居る女かな
 52 嵯峨へ出た日か吉日や初さくら
 53 草餅や白の中まで春の色
 54 兒よする風にくもるや濱の松
 55 青柳や此一筋は寺の道
 56 みしか夜や淀見えそめて川手洗
 57 春もまた水音寒しあらし山
 58 瀬かしらにかさねかけたる水かな
 59 鎌の刃をのかれて出たり初かはつ
 60 喰もせて愛せらる、や小殿原
 61 近所から雛見にくる大家哉
 62 揚々と何処へくつる、雲雀かな
 63 天気からほめて打出すはたけ哉
 64 二三丁歩行て見たり初かすみ

- 鶴歩
 一雲
 檀琴
 友川
 芳園
 悠平
 慰水
 南明
 万艸
 巴長
 琴松
 友川
 柳窓
 慰水
 秋石
 蟠龍
 梅圭
 悠平
 菊川
 霞松
 桃里

マツエ
 マツエ
 檀もと列火無し。第一号の記載に依つて改む】

65 青柳や山なき里の遣ひ水 巴長

66 大鳥の立て晴けり野の霞 鶯丘

67 福せりや人のわき出る寺の門 柳窓

68 鶯のたまつて逃る曇かな 鶴歩

69 物干に山鳩の啼雪け哉 榊川

70 こっそりと出て高声や猫の妻 青牛

71 追おろす家鴨や河岸の朝霞 也丈

72 笠もたぬ旅人もあり春の風 一外

梅花如高人

73 きつとして香の静さや梅の花 曲川

74 夜は水のおほる明りや江の柳 同

75 苗代や三日たつ間に此青み 前路

76 鶯に袴のまゝのはし居かな マツエ 松翁

正誤 前号八葉表 俳名一散ハ一敬ノ誤 七葉表句日のぬみハぬくみノ誤

【奥付】

正誤追加 新誌表面ニ風月吟社ト有ルハ全ク印刷ノ誤ニ付取消

明治十四年四月御届

同年 同月出版

編輯兼出版人

島根県土族

平賀半助

出雲国松江内中原町

同

同

勝田千之助

南田町

発兌所

一年舎

同

天神町

本翻刻は、

・島根大学法文学部山陰研究センター 山陰研究プロジェクト

二〇一〇―二〇一二年度 山陰地域文学・歴史関係資料の研究

代表者 要木純一

による成果の一部である。